インターアクトクラブのみなさま

今日は。フィリピンシキホール島の原因です。

私は大分出身です。金池小学校、上野丘中学校、大分舞鶴高校を卒業して、東京の学校で学び神奈川県平塚市で36年間、小学校の教師をしていました。その間、内戦下のレバノンベイルート日本人学校、砂漠のクエウト日本人学校、オランダ日本人学校など7年間海外日本人学校の教師も経験しました。

みなさんは青少年赤十字 JRC をご存知ですか？子どものころから、人道、博愛、奉仕、国際理解親善などを身に付けさせたいと学校に組織されているものです。ロータリークラブやインターアクトと同じように奉仕活動に力を入れています。

わたしはこの JRC のボランティアリーダーでした。長い間、クラスの小学生たちと色々な活動をしてきました。年末の赤十字と NHK の海外助け合い募金を30年間、空き缶集め、野菜を育てて販売した野菜募金など集まったお金は海外の貧しい子供たちに赤十字を通じて送りました。退職後、これらの貴重な体験を海外の子どもたちに生かしたいとここフィリピンのシキホール島にやってきました。

シキホール島で、自分の力では大した支援活動ができないので友人たちに声をかけ、ロータリークラブを立ち上げました。そのおかげで今までに日本のロータリークラブの支援で42もの学校に100以上のトイレを10の学校に水タンクを、7つの学校に卒業式などの外ステージを作ってきました。また、青学の学生たちがソーランダンスを教えに来てくれて島中に「どっこいしょ」の掛け声が響き渡りました。

私は家庭が貧しくて上の学校に行けない子を支援しています。今までに30人の学生をカレッジに送りました。今年は7人の子をハイスクールに送っています。彼らはみんな崩壊家庭の子どもたちです。朝早く起きてレストランの朝食の準備をして学校に出かけます。帰ってきたら私とテニスを楽しみ、夜はレストランを手伝います。その後、勉強です。みんな明るい笑顔で頑張っています。生徒会長、クラスの学級委員長などをやっている子がほとんどです。

もっと多くの子を支援したいと始めたのがモリング基金です。島中どこにもあるモリングを学校中にどこの家庭にも植えてもらい、これを乾燥させてお茶にして日本に送っています。帰国する度に日本のロータリークラブを訪問して支援を呼び掛けています。この活動が広まるようにみなさまも応援してくれるとうれしいです。

うちで働く3人のハイスクールの子たちからみなさんにメッセージを送ります。16歳のジーナ、18歳のカレン、21歳のレンジリーンです。年は違いますが同級生です。レンジリーンは4年間学校に通えず休学していました。でもみんな明るいでしょう。